



汐見の和

【学校教育目標】人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子
電話 045-761-1561 FAX 045-754-6409
ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shiomidai/>

横浜市立汐見台小学校
令和5年5月25日
学校だより 6月号



花育

校長 犬塚 真

新緑がまぶしい季節になりました。朝の気温もぐんと上がり、額に汗を光らせて登校してくる子どもたちの姿に初夏の訪れを感じます。

さて、私が小学校5年生の時、教室の黒板の上に「花は自分で開く」という言葉が掲げられていたのを今でもよく覚えています。この言葉は、自分の力で物事を成し遂げ、自ら人生を切り拓いていくことが大切だということを表しているようです。当時の担任は、自分で考え自ら行動せよということをよく話していました。花々は私たちの癒しとなるだけでなく、人の営みや生き様になぞらえられることが多々あります。また、生命力の象徴となる花は、人々に希望や勇気を与えるとも言われています。

先日、1年生が生活科の学習で一人ひとりの植木鉢に朝顔の種を植えました。きっと、この小さな種からたくさんの花が咲くことを心待ちにしていることでしょう。種を植えた次の週には「芽が出た！4つも出てきた！」と、歓喜の声をあげる子どもたちの姿がほほえましく思えました。

皆様は「花育（はないく）」という言葉をご存じでしょうか。「花育」とは「花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むこと」で、農林水産省のホームページからその詳細を知ることができます。

本校でも生活科や理科、総合的な学習の時間を使って花を育てる活動が多く計画されています。そこには草花に対しての愛着や植物にも命があることへの気づきをはじめ、よりよい育て方を工夫することで探求心や創造力を育むこと、植物を介して交流の輪を広げることなどといった様々なねらいがあります。生命の尊さを実感しながら植物と触れ合うことは、子どもたちの心身の成長につながると考えています。

今年度の入学式では1年生の子どもたちに向けて「皆さん一人ひとりの中にそれぞれの花壇があって、そこにはすでにいろいろな花が咲いているし、これから咲く花もたくさんある。それは一人ひとりのできること、得意なこと、これから身に付けることで、その花が咲く時期も色も大きさもみんな違う。もちろんそれでいいのです。」という話をしました。花にはそれぞれの咲き方や美しさがあり、花に対する好みも人それぞれです。私たちも子どもたちも実際に様々な花と出会うことで、感受性を豊かにしながら個性や多様性について学んでいきたいものです。

ちなみに、1年生の子どもたちが育てているアサガオの花言葉には「信頼」「誠実」「純粹」などがあります。また、アサガオは夏の暑さに負けずに強く生きる力を象徴する花とも言われています。これから夏に向けて、1年生の子どもたちも色とりどりのアサガオのように、それぞれ个性的で美しい花を咲かせていくことでしょう。大いに期待しています。

